

第36回全国選抜高校テニス大会レポート

全国高等学校体育連盟テニス専門部

常任委員 内藤 美明

《 開会式 》

第35回全国選抜高校テニス大会、平成25年度全国高等学校総合体育大会、そして、第36回全国選抜高校テニス大会と3回連続で同じ博多の森テニス競技場で開催される全国大会が、平成26年3月21日に始まりました。3大会連続の選手もいれば、初出場の選手もいます。選手1人1人の自信と決意が入り交じった、少し硬い表情での入場行進。今年もまた、春の訪れとともに、全国の選手達が博多の森テニス競技場にやって来ました。

4月4日からのデ杯、チェコ戦を前に忙しい中、日本デ杯チームの植田実監督が選手達を激励に来て下さいました。出場選手達は、このサプライズに興奮し、明日からの戦いに全力を尽くしてくれると期待します。

選手を代表して、福島県立磐城高等学校、久野在世主将が「まだまだ、震災の影響はありますが、郷土の代表として出場していることに誇りを持ち、私たちを支えて下さる全ての方々に感謝して精一杯戦います。」と爽やかに宣誓しました。



開会式の入場行進の演奏を務めたのは、福岡大学附属若葉高等学校吹奏楽部と福岡大学附属大濠高等学校合唱部、アナウンスは、筑紫女学園高等学校放送部。また、中村学園女子バトン部が歓迎アトラクションに参加しました。このように全国選抜高校テニス大会は、多くの高校生の支えによって成立しています。

《 団体戦 》



男子ベスト8は次の学校。東海大菅生(東京)、浜松市立(静岡)、東京学館浦安(千葉)、相生学院(兵庫)、柳川(福岡)、大分舞鶴(大分)、足利工大附(栃木)、四日市工(三重)。関東3校、東海2校、九州2校、近畿1校。そのうちシード校の東海大菅生、相生学院、柳川、四日市工が、すべて順当にベスト4まで勝ち上がりました。

男子優勝は、柳川。東海大菅生との決勝戦は、室内コートで行われました。シングルス1は、斎藤(東海大菅生)が粘る安上(柳川)にストロークで打ち勝ち7-5、7-5。ダブルス1は、試合巧者の松田・小見山(東



海大菅生)が6-1、2-6、6-0で平田・ヘルナンデス(柳川)を下しました。シングルス2、田中(東海大菅生)と町田(柳川)の試合は、5-7、6-4、4-2で柳川の絶対不利な状況。この状況で町田が踏ん張って、ファイナルセット2-4から6-4で勝利。シングルス3は、萬福(柳川)が6-0、4-6、6-1で杉山(東海大菅生)に勝って、勝負の行方はダブルス2にかかりました。木野・武田(柳川)

6-4、3-6、5-2のマッチゲーム。木野・武田40-30のマッチポイントでミスが続き5-3。40-0のトリプルマッチポイントから宮武・小桧山(東海大菅生)が粘ってデュース。木野・武田が6回目のマッチポイントを取って、柳川の優勝が決まりました。

女子ベスト8は次の学校。浦和学院(埼玉)、愛知啓成(愛知)、湘南工大附(神奈川)、秀明八千代(千葉)、園田学園(兵庫)、野田学園(山口)、富士見丘(東京)、沖縄尚学(沖縄)。関東4校と東海、近畿、中国、九州それぞれ1校。シード校の京都外大西(京都)が3回戦で浦和学院に、同じくシード校の名経大高蔵(愛知)が園田学園に初戦で敗れるという波乱があり、優勝の行方が・・・。

ベスト4は、ともにノーシードから勝ち上がった愛知啓成、湘南工大附、園田学園、富士見丘の4校。



女子決勝は、湘南工大附対園田学園。シングルス1は、上(園田学園)が4-6、6-1、6-4で原口(湘南工大附)に、ダブルス1は、竹内・大屋(湘南工大附)が3-6、6-1、6-2で藤本・釜江(園田学園)に競り勝ちました。途中から雨が降り始め、女子決勝は、雨中の戦いとなりましたが、コート上に水が溜まり始め、雨も激しくなってきたため、室内コートへ移動となりました。14:45中断。しかし、

室内コートは、男子決勝戦が行われていました。男子決勝戦が終わり、柳川高校の本田監督の胴上げ、マスコミ各社が写真撮影をする中、女子決勝の途中試合の審判員がスタンバイし、男子優勝の柳川高校の選手達が退場して、女子決勝が15:20から再開されました。ポイント2-1で園田学園リード。シングルス2、3ともにファイナルセットから始まりました。シングルス2中谷(園田学園)が鎌田(湘南工大附)に、シングルス3渡辺(園田学園)が高橋(湘南工大附)にともに7-5で勝って、園田学園が優勝しました。

《 個人戦 》

個人戦は、団体戦で2回戦以上に勝ち上がったチームのシングルス1の選手によるトーナメントで競われます。

男子ベスト6は次の選手。斎藤和哉（東海大菅生）、古田伊露（浜松市立）、小林紀輝（秀明八千代）、前崎直哉（関西）、古賀大貴（大分舞鶴）、安上昂志（柳川）。決勝戦は、小林対古賀。安定したストロークを軸に終始試合を優位に進めた小林が6-1、6-1で圧勝し、優勝を決めました。

女子ベスト6は次の選手。原口沙絵（湘南工大附）、大河真由（秀明八千代）、辻紘子（早実）、大屋希（名経大高蔵）、リュウ理沙マリー（沖縄尚学）、上唯希（園田学園）。決勝戦は、大河対リュウ。激しいストローク戦を制した大河が6-4、6-4で優勝を決めました。そして、秀明八千代が、初の個人戦アベック優勝を成し遂げました。



《 終わりに 》

第35回全国選抜高校テニス大会、平成25年度全国高等学校総合体育大会、第36回全国選抜高校テニス大会と1年間の間に3回、半年に1回ずつ全国大会を運営して下さった福岡県高体連テニス専門部の先生方、そしてテニス部員の皆さんには、大変お世話になりました。また、今大会も雨に悩まされ、再三にわたって無理な願いをしたにも関わらず、大会を成功させようという高い意識で取り組んで頂いたことに対して、心より敬意と謝意を表します。

今大会は、団体戦も個人戦もどのチーム、誰が優勝するのか解らない大混戦だったような気がします。連日、どの試合も熱い感動を見る者に与えてくれました。これは、大会を陰で支えて下さった大会関係者の方々と補助員の生徒達の素晴らしい働きがあったからだと思います。そして、明日からは次の戦い、テニスの聖地、有明テニスセンターで開催される東京インターハイでの熱い戦いを期待して、大会レポートを終わります。

